

子どものための狂言体験講座

さんになぶ くちまね
～小舞「三人夫」、狂言「口真似」に挑戦！～

感受性豊かな子どもたちと伝統芸能との出会い
狂言師・茂山千三郎が演出します

「狂言」を通じて 日本の伝統を身近に感じてもらうための体験講座です

- ◆ 開講日時 ① 5月17日(日) 14:00～15:30 (受付・開場 13:30)
② 5月31日(日) 18:00～19:30 (受付・開場 17:30)
③ 6月13日(土) 14:00～15:30 (受付・開場 13:30)
④ 6月20日(土) 14:00～15:30 (受付・開場 13:30) 計4回の連続講座です。各 90 分。
- ◆ 開講場所 茨木市市民総合センター(クリエイトセンター) 2階・多目的ホール
- ◆ 講師 大蔵流狂言師 茂山千三郎・鈴木 実
- ◆ 対象・定員 小学生30人。4回通して参加できる方。保護者同伴でご参加ください。
- ◆ 受講料 1,000円(通し)
- ◆ 準備物 動きやすい服装で、足袋または靴下を着用、水分補給のための飲み物をご持参ください。
また、録音機器をご持参いただくと次回までの復習に便利です。
- ◆ お申込み 茨木市文化振興財団・文化事業係072-625-3055(市民会館ユーアイホール1階 9:00～17:00)
3月14日(土)9:00から電話予約開始。定員に満たない場合は翌日から窓口受付開始。
予約後は、市民会館またはクリエイトセンターチケットカウンターでご精算ください。当日のご精算もお受けします。
- ◆ 備考 1)講座の様子は主催者により撮影し、情報誌、ホームページ、フェイスブック等において公開される場合がありますので
予めご了承ください。
2)この講座は、狂言公演出演のオーディションを兼ねた講座ではありません。

【講座内容】

テキスト: 小舞^{さんになぶ}「三人夫」／狂言^{くちまね}「口真似」

① 5月17日(日) 14:00～15:30

基礎講習 (可能ならば、それぞれ録音機を持参ください。)

狂言の発声・構え・歩行から 簡単な部分稽古

小舞の習得～まず謡「三人夫」の実習稽古

狂言「口真似」の台詞稽古

* 宿題として「謡・台詞を覚えて来よう！」

② 5月31日(日) 18:00～19:30

謡「三人夫」のおさらい

舞の稽古 「三人夫」の舞の稽古

狂言「口真似」台詞のおさらい

狂言「口真似」の動き稽古

③ 6月13日(土) 14:00～15:30

小舞「三人夫」の完成

狂言「口真似」の動き稽古

④ 6月20日(土) 14:00～15:30

狂言「口真似」の完成

発表

◆小舞「三人夫」

年貢上納のために上京する淡路と尾張と美濃のお百姓が、途中で出会い同行することになります。三人は、お奏者を通じて年貢を納めますが、三人が揃うとはめでたいので、それぞれの国の名前を入れて合作で一首詠むように言われます。「淡路より 種蒔き初めて三つ葉さし 花咲き終わり実の成るは稲」。終わり＝尾張、実の＝美濃、と掛けてあるのです。続いて三人の名前を聞くと、つうじ、まかじ、これへまいろう、という変わった名。これまたこびた(変わった)名なので、歌に詠めという命令。「二人が変わった名をつけるから…」と美濃の百姓は文句を言うのですが、実は彼の名がいちばん変わっています。(笑)彼は、「なんじゃ、つむじ? また毛?」と驚いて声をあげるおどけ者です。「淡路より 多くの宝通じ舟 まかじが漕いで是へ参ろう」。最後はうまく歌が詠めたので、お奏者からお酒を振舞われて、三人でめでたく舞を舞って終わります。

◆狂言「口真似」

登場人物／太郎冠者(シテ)、主人(アド)、客人(アド)

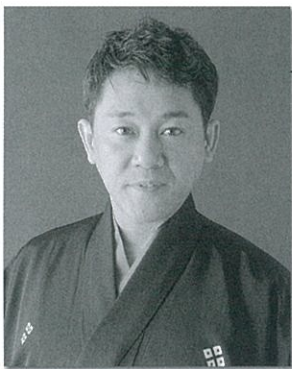
上演時間／約20分

主人はあるところから酒をもらったので、誰か相手になる人を呼んで来いと太郎冠者にいいつけました。

太郎冠者は思いついた人を訪ね、「ご主人とは交際がないから」と言うのを無理に連れてきます。

主人が陰から見ると、有名な酒乱の人物なのですが、無理に連れて来た手前穏やかに帰そうと考え、太郎冠者に自分の言うとおりに行動するようにといいつけます。

冠者は主人のものまねをすればよいのだと勘違いをし、一挙一動主人のものまねをするので、怒った主人が冠者を打ち倒します。太郎冠者の愚かな勘違いを題材にした単純明快な作品です。



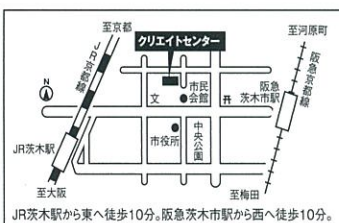
茂山千三郎(しげやま・せんざぶろう)

1964年9月4日、十二世茂山千五郎の三男として生まれる。自主公演の花形狂言会やTOPPA!を主宰し、古典狂言の魅力をアピールする。その反面、FM京都のパーソナリティを14年勤め、京都市交響楽団や立川志の輔、夏川りみ、篠内佐斗司らともコラボし、古典の枠にとらわれない活動を展開。『だんご舞』、『都わたり』など、新作狂言の脚本も手掛け、中でも『流れ星-X』は愛・地球博その他で発表し、各地エコロジー団体より上演の要請を受ける。近年では團伊玖磨作曲のオペラ『ちゃんちき』を演出し、UFJ信託銀行奨励賞受賞。

著書に集英社新書『世にもおもしろい狂言』がある。

鈴木 実(すずき・みのる)

1978年7月10日、東京に生まれる。2002年に「café 1036 east」(東京・茂山千三郎社中)で狂言の稽古を始め、2006年に千三郎の元に正式入門する。それまでは、大学在籍中より演劇活動を始め、関東を中心に役者・モデルとして活動をしていたが、狂言の魅力に取り憑かれ狂言師を目指す事を決意。同年、インド・ニューデリー日本文化センター開所式記念公演に参加。『棒縛り』にて初舞台。2007年、京都能楽養成会入会。2011年より、同門の島田洋海、増田浩紀、井口竜也、山下守之らと狂言「五笑会(ごしょうかい)」を結成。年4回、京都府立芸術会館にて狂言会を催す。2013年、京都能楽養成会卒業。日本能楽協会入会。同年4月に独立。11月に独立披露狂言を開催。日本能楽協会会員。



クリエイティブセンター(茨木市市民総合センター)茨木市駅前四丁目6番16号/072-624-1726